

## 歴史トーク「百済寺跡よもやま話」

(百済の会 狩野輝男、枚方市教育委員会 竹原伸仁、司会 加地禮子)

### ① そもそも百済って何なのですか。

→ 4世紀から7世紀にかけて朝鮮半島に3つの国が勢力を争っていました。その国の一つが百済です。3つの国とは高句麗、百済、新羅ですね。その時代を三国時代と呼んでいます。

百済は紀元前1世紀の頃に、高句麗を建てた朱蒙の子の温祚がソウルの南の慰礼城に都を置いたのが始まりと言われます。当時は「伯済」と言っていたのですね。古代の朝鮮半島南部（今の韓国に当たる地域）には三韓と言って馬韓、弁韓、辰韓の地域がありました。その中の馬韓には50を超える国があったのですが、現代のような国家ではなくて所謂部族連合体ですね。伯済はその一つで、そこに温祚が入ってきたと言えらると思います。その伯済がだんだんと大きくなり、多くの人が入ってきたという意味から百済と名前に変わりました。

### ② ヒャクサイと書いてクダラと読むなんてちょっと難しい・・・。

→ そうですね。韓国語では百はペク済がチェです。だから百済は韓国では「ペクチェ」と言います。ところで、韓国語のクは大きいという意味、ダラ（ナラ）は国のことです。だからクダラは大きい国ですね。百済は大きい国だったから昔はそう呼ばれたかもしれませんし、誰かが「百済はどんな国か？」と聞いたときに百済の人が「大きな国だ。クダラだ。」と答えて、それが倭国での国名になってしまったのかも知れません。因みに「奈良の都」のナラも韓国語の国を意味するナラではないでしょうか。

### ③ 先程、百済の都はソウルの南の慰礼城いれいじょうというお話でしたが、百済の都は今の扶余ぶよ昔の泗比しひではなかったですか。

→ 最初の都が慰礼城あるいは漢城、2番目が先程話に出まし熊津、そして最後がシビです。

### ④ そんなに都が変わったのはやはり理由があるのでしょうか。

→ 勿論あります。4世紀に入って近肖古王という王様が、高句麗と戦って大勝利したことから百済の地位が一挙に高まります。そして都を慰礼城から漢城に移して古代国家体制を確立します。都を移したといっても、少し離れた場所に立派なお城を造りそこに移ったと考えてよいでしょう。この近肖古王がわが国に使者を送って友好関係を結ぶのです。北の高句麗に対抗するために南の倭国と手を結んだわけですが、これが百済と倭国の関係が出来た始まりです。

百済に破れた高句麗がその後だんだんと勢力を増大して百済を攻めます。そして475年に漢城が滅ぼされて蓋鹵王は殺され、子の文周王が都を熊津（今の公州）に移すのです。

### ⑤ それが第1回目の遷都というわけですね。

→ その通りです。この熊津時代の有名な王様が武寧王です。この方は九州唐津沖にある加唐島で生まれましたので嶋王とも呼ばれています。武寧王が有名な大きな理由はそのお墳墓が全く荒らされずに発見されて、墓誌も出てきましたから王の生涯についての記録が明らかになりましたし、副葬品からも当時の事情がかなりよく分かったのです。

→ 王の棺は日本にしかない高野槨で作られていました。しかも棺の置かれていた部屋は煉瓦のような焼き物でできているのですが、そこに施されている装飾紋が日本にあるのと非常に近い形なのです。これらから見て、武寧王がわが国と関係が深いことが分かります。

### ⑥ 桓武天皇のお母さんが武寧王の子孫というお話がありましたね。

→ ええ、桓武天皇のお母さんの高野新笠は武寧王の子孫倭乙継の娘です。ですからこの面からも武寧王はわが国と縁が深い方だと言えますね。

⑦ この頃に百済とわが国とは深い関係があったのですか。

→ 実は百済と新羅の間には伽耶とか呼ばれる地域がありました。ここにも10余りの部族国家がありまして、ゆるやかな連合体を作っていました。地理的な関係などから統一国家が出来なかったのです。わが国ではここを任那と言っていました。この領有をめぐる百済と新羅は抗争を繰り返すのですが、倭国もこれから半島への出兵を繰り返しています。

枚方に関係のある継体大王の時にも近江臣毛野の半島への出兵のお話があります。これが武寧王の時代のことです。余談ですが、この毛野の奥さんが詠んだと言われる「ひらかたゆ 笛ふきのぼる 近江のや 毛野の若子い 笛ふきのぼる」という歌が日本書紀に出てきますが、これが枚方という地名の初出と言われていますね。

⑧ その熊津うんじんの後が泗比しびになるわけですね。そこで百済は滅ぶ・・・。

→ そうです。武寧王の次の聖王（聖明王とも言いますが）が高句麗や新羅に対する戦力上の都合から熊津から錦江の下流域にある泗比に都を移すわけで、538年のことです。この年にやはり連携強化などの理由もあって倭国に仏教を伝えているのです。これは552年という説もありますが・・・。今日のセレモニーで、韓国にお住みになっている東アジア隣人ネットワークの代表の方が挨拶されましたが、その中で泗比が最後の都だけれど益山という都もあったというお話をされました。半島の歴史の中でこの益山のことは殆ど語られませんが、最後の王様義慈王の一つ前の武王が一時期益山に都を築いていて、その遺跡が残されています。しかし何らかの事情でその都は短命で終わってしまいました。武王というのは韓国ドラマ「薯童謠」の主人公ですが、この話の現実性はかなり疑わしいようです。

ところで百済は660年義慈王のときに中国の唐と新羅の連合軍によって攻め滅ぼされてしまいます。663年にその復興運動が起こされて、時の斉明女帝や中大兄皇子がその援助に立ち上がり、半島に出兵するのですが、白村江の戦いで大敗を喫してしまい百済は完全に消滅します。近肖古王が即位した346年から義慈王の660年までの315年間は百済という国家の歴史といつてよいと思います。

⑨ その百済と枚方とはどういう関係があるのですか。

→ 枚方は古くから半島からの渡来人が多いところで、百済からの人も大勢住んでいたでしょうから、歴史上に現れなくても百済をはじめ半島からの影響がもともと強い土地だったと言えます。

さて中宮にあります百済寺跡ですが、この寺は百済義慈王の子孫が建てたものです。百済が滅亡する前に、義慈王の子ども豊璋と善光（禅広）という二人の兄弟が、友好の人質として倭国に送られて来ていました。兄の豊璋は百済復興のために担がれて百済に帰りますが、善光は日本に留まってその後難波に居住地を与えられ、持統天皇からは「百済王」という姓を与えられます。百済の王様ということではなくて、日本の貴族の姓としての百済王です。その善光の曾孫に当たる敬福という人が河内守になって、一族の人たちが交野即ち枚方中宮に住むようになるのです。そんな関係で枚方と百済という名が緊密に結びついたので。

因みに交野は昔は、現在の交野市を含めて樟葉から南の天野川までの広い範囲、即ち現在の枚方市の4分の3位の地域を指していましたから中宮も当然交野の地域でした。樟葉に交野天神社というのがあって不思議に思われていた方もあるかも知れませんが、そう言うことで全く不思議ではないわけです。

⑩ 百済王の子孫一族がどうして枚方に・・・。

→ ここが肝心の話ということになるのですけれど・・・。百済滅亡の時にわが国に来ていた善光たち王子は、勿論単独で来ていたのではなくて当然多くの部下がいたわけです。また、滅亡によって亡命してきた百済人も大勢いました。朝廷は百済王子として優遇しただけではなくて、その周辺にある軍事力・技術力とか交易力を大事にしました。だからこそ難波の地を与えて優遇したのです。勿論敗戦後の対新羅とか唐という国際情勢への配慮も大きいでしょう。いつ攻めてこられるか分からないという状況でしたからね。善光の曾孫の敬福も軍事力を見込まれて聖武天皇のときに陸奥国の国守に任じられました。当時東北地方は蝦夷の支配するところで、またこの地に中国東北地方（高

句麗や百済の故地と言えるところ)に興った渤海国の使節が漂着するなどの事件があったりして、日本にとって軍事力が必要なところでした。そしてその敬福の一族が結果として枚方に来ることになったのです。

⑪ 敬福の一族が枚方に来たというのは訳ありですね。

→ そうです。聖武天皇はご承知のように743年に大仏建立の発願をされるのですが、仏像の建設は順調に進んだのに肝心の仕上げに使う金が足りません。当時金は国内では採れず輸入していたのですが、その時に敬福が任地の涌谷というところで金が発見されと言って金900両を献上したのです。今の目方で言えば約13キロです。これが749年のことですが天皇は大喜びされ、敬福を従三位宮内卿兼河内守に任じられました。その結果一族が交野の中宮に移住することになったのですね。敬福は宮内卿ですからお役柄中宮に引っ越してきたとは考えにくいのですが、一族がその氏寺として建てたのが百済寺ですね。敬福が発願したということは大いに考えられます。発掘調査によって当時の街の規模や寺の跡などが明らかになってきています。

⑫ そのお寺の跡が国指定の特別史跡になった、今年がその指定60周年だそうですね。国指定の特別史跡は大阪には大坂城跡とこの百済寺跡の2つしかない、全国でも61しかないそうです。物ならば国宝という貴重なものですが、最近の発掘調査ではすばらしい発見が次々に出ているとか・・・。

→ そうですね。過去にも昭和7年に発掘調査が行われ、その後昭和27年に国の特別史跡に指定されたわけです。今回も平成17年から調査が行われていて、特別史跡として幾つかの事実が発見されています。発掘するほどにますますその価値が増加していく・・・、そんな感じですね。

⑬ ますます百済寺跡の価値が上がっていくということですが、例えばどんなことが・・・。

→ (この質問について竹原伸仁氏から例を挙げての説明がありましたが、まとめができませんでした。発掘調査に関する「平成22年度調査の成果」の報告のまとめをご覧頂ければ、百済王氏との関係や全体的な価値についてのご理解が頂けるのではないかと思いますので、それを転載させていただきます。

『今回の調査では、西面回廊の西端と規模を初めて明確にできたこと、南面築地大垣の外側の溝を確認できたことなど、百済寺跡の再整備に向けての有用なデータを得ることができました。

平成17年度以来の調査で、桓武天皇や嵯峨天皇と百済王氏の慰勲の舞台であった百済寺跡が、地方寺院や氏寺の造営が規制されていた8世紀中頃に伽藍が整えられており、別格的な存在であったことが視えますが、規模こそ小さいものの礎石・基壇化粧など、当時の官寺にみる最新技術を駆使して造営され、さらに四面に築地大垣繞らせ、南門・東門のほかに北門も備え、堂塔院を取り囲む付属院地も整然としており、京師のそれと比較しても遜色のないものであることが今回の調査で明らかになってきています。百済王氏が天智朝以来の百済王族としての礼遇の踏襲に加えて百済王敬福の陸奥国での産金に対する論功行賞の顕れとも理解できます。

このように堂塔院に加えて付属院地の様相まで具体的に把握できる例は極めて稀であり、京師外の氏寺では唯一といえます。こうした事例は、寺院の中心をなす伽藍地の外側にまで調査が充分でない現状では、極めて貴重な例であり、さらに周辺部の調査が進めば、これまであまり明らかでなかった古代寺院の構造と経営の実態に迫ることができ、古代寺院景観を彷彿とさせることができるような再整備の計画に反映させてゆきたいと考えています。』

\* 特別史跡百済寺跡再整備事業に係る発掘調査—平成22年度調査の成果—  
枚方市教育委員会・(財)枚方市文化財研究調査会

以上は第11回枚方・百済フェスティバルにおける「歴史トーク」のまとめですが、まとめに当たり補足と割愛を行いましたのでご了承ください。(文責 狩野輝男)